

## 国立七大学サイバー・ユニバーシティ構想が描く未来潮流

伊藤直哉

- 標準コンテンツ化構想: 外国語 e ラーニング用標準化コンテンツの作成
- オープンコンテンツ構想: コンテンツの著作権を開放し、流通・再利用システムを構築
- WebOCM 構想: 現時点で維持管理の最も容易で安価なシステムの導入
- オープン・コンソーシアム構想: 参加校に自由にコンテンツとシステムを開放

平成 11 年度より開始された本プロジェクトは、現代 IT 社会の技術的蓄積を、外国語教育の現場で生かそうとする e-Learning の取組である。プラットフォーム、コンテンツ及びその教授法という三つの開発を柱としつつ、文部科学省学術ネットワーク上の拠点を形成する七つの大学が連携し、膨大な学生数と多用なニーズに対して運用可能な実用的大規模展開を推進している。

本プロジェクト最大の特徴は、システムやコンテンツに対してオープン構想を掲げている点にある。一般的に、プラットフォームやコースウェア開発には莫大な資金と技術を必要とするため、各組織の知的資産として囲い込む傾向が強い。しかしながら、本プロジェクトはネットワーク上の公的な責任を果たすべく、その成果を広く全国の教育機関に無償で提供・流布している。情報化社会がもたらすデジタルコンテンツの恩恵は、独り技術と資金を有した者たちの独占物でなく、広く社会全体で共有されるべきであると考えます。

外国語サイバー・ユニバーシティ・プロジェクト(代表者:伊藤直哉)HP から  
[http://www.he.tohoku.ac.jp/~sugiura/cu\\_project/](http://www.he.tohoku.ac.jp/~sugiura/cu_project/)